

令和 4 年献茶式

川根茶の季節到来と
さらなる発展を祈念



茶産地の誇り

「川根茶魂」に込める

4月15日、町茶業振興協議会（会長・藺田靖邦町長）主催の献茶式が、フォーレなかかわね茶茗館で執り行われました。

式典には町内の生産者や茶商など茶業関係者を中心に約30人が出席しました。祭壇に設けられた「川根茶魂」の木碑に、静岡県茶手揉み保存会川根支部の皆さんが仕上げた新茶を献上し、本格的な新茶の季節到来を前に、川根茶のさらなる発展を祈念しました。

出席者を代表して献上茶を祭壇にささげた藺田町長は「長い歴史と伝統を受け継ぐ川根茶が今年も活気付いてきました。先人が守りつないできた川根茶を後世に引き継いでいくために、関係者一丸となって盛り上げていきたい」と力強く話し、今後の茶業発展への決意を新たにしました。

▶祭壇に設けられた

「川根茶魂」の木碑



全国茶品評会 出品茶摘採

第 76 回全国茶品評会

【開催地】京都府宇治市

【審査結果発表】 8月26日

▼町内からの出品者（敬称略）

【普通煎茶 4^{kg}の部】

◎つちや農園（土屋鉄郎）

◎松島園（川崎好和）

◎相藤園（相藤令治）

◎相藤農園（相藤直紀）

【普通煎茶 10^{kg}の部】

◎丹野園（丹野浩之）

◎小平園（小平史郎）

◎橋本立生



摘採しながら出来栄を確かめるお茶摘みさんたち

茶産地の誇りを胸に

4月28日から5月6日にかけて町内の各茶園で全国茶品評会に出品する茶葉の摘採が行われました。出品用のお茶は町内のお茶摘みさんや関係者により「二芯二葉」で丁寧に摘み取られました。ある園主は「今年も茶葉の生育が早く品質は申し分ない」と語っていました。

摘採された茶葉は鮮度が命。すぐに一箇所に集められ、保冷車によって茶工場へと運ばれていきます。

特集

待ち焦がれた 川根茶の季節

新緑に染まった茶葉の爽やかな香り、製茶工場の活気に満ちた音、

茶畑から聞こえてくるお茶摘みさんたちのにぎやかな声。

五感全てで感じ取れる茶時の到来。この輝かしい季節を待ち望み、

色めきだった町の「川根茶の季節」をお伝えします。

